

先端医学講座発足の趣旨

山梨大学医学部の「先端医学講座」は、特色ある海外学術交流を目指して、医学部の先端的医学研究や最新医療技術を交流協定校に広くアピールすることを目標として始められた海外交流プロジェクトのひとつである。その発足の経緯は次のとおりである。

2001年4月に山梨医科大学の吉田洋二学長が、学術交流協定更新のため中国医科大学を訪問した際、金魁和学長との間で両大学間の友好協力と学術交流の新しい段階を期待して事業の開設を具体化することで合意したことによる。さらに2002年7月には、内蒙古医学院と学術交流協定を締結し、その後、吉田洋二学長より、内蒙古医学院との交流事業の具体的なプログラム検討の指示があった。そして、2002年9月には内蒙古医学院を教授、講師、専門職員が訪問し2003年度から「先端医学講座」を実施することで両校が合意した。

このような経緯のもとに発足したが、以前はアジア途上国から留学生が日本で勉強して帰国するという一方的な交流が一般的であったが、現在はむしろ優秀な留学生人材を生かして日本に貢献して頂くという考え方が到来している。

世界経済がグローバル化されつつある中で、少子高齢化社会を迎えるわが国においては、外国人留学生を積極的に受け入れることは、わが国の経済発展にも寄与することが十分に期待される。また、医学分野における基礎研究者の激減等の現状を打開する上でも留学生の受け入れが重要な手段のひとつとしても意義がある。この意味でも「先端医学講座」は今後の国際交流推進の大きな原動力となり得る。